

マルクス・エンゲルス選集

総目次
著作年表
総索引

著総

第

第 18 卷

著作年表 総索引

全 二 十 三 卷 総 目 次
著 作 年 表
本 卷 全 十 七 卷 の 総 索 引

¥ 500

マルクス=エンゲルス選集

第 18 卷

マルクス・レーニン主義研究所編

著 総
目 次・総
作 索
年 引
表

大月書店刊

一九五四年十一月十五日 初版発行
一九五六年五月二十日 再版発行

第十八卷

定価 五〇〇円



編集者

マルクス・レーニン主義研究所

発行者

小林直衛

印刷者

東京都文京区柳町二六番地
三晃印刷株式会社

発行所

東京都文京区
本郷一丁目一五番地

大月書店

電話 小石川(92) 三〇九一番
七八八七番
振替・東京 一六三八七番

三晃印刷・田中製本

凡 例

一 総目次は、第一巻から補巻5までの全部をおさめた。*印は、その後の考証により著者名に変更をくわえたものである。

二 著作年表では、抜萃ノート、手紙などは原則としてのぞいた。

三 総索引は、補巻をのぞき第一巻から第十七巻までについて作製した。

文献索引のうちには、本選集所収のマルクス・エンゲルス自身の著作は、とくに他の個所で引用されているものをのぞき、かかげてない。

人名索引のうちには、マルクス・エンゲルスは全部はぶき、また、文学、物語等の人物名は原則としてとりいれてある。

事項索引は、マルクス・エンゲルスの思想を直接間接に理解するに必要な語彙、および重要な命題を摘要した項目、の二つを中心に採收した。ただし、紙数や時間の関係でかならずしも厳密に網羅的ではなく、また、類語の参照指示についても全部にわたってはしめすことができなかった。なお、事項索引については総目次をも併用された。

四 総索引の配列は、機械的にアイウエオ順を原則とし、ただ、年月その他数字であらわされる語がいくつか継続する場合だけはその数の順をおうようにした。①……⑰はそれぞれ該当の巻数をしめす。

目次 第十八卷

全二十三卷(本卷十八卷 補卷五卷) 総目次

..... 一

著作年表 七

総索引(本卷第一
—十七卷)

文献索引 一七三

人名索引 二〇三

事項索引 二九四

終刊の辞 二七

全二十三卷

(本卷十八卷
補卷五卷)

総目次

第一卷

新世界觀の成立

現象論のヘーゲルの構成(マルクス).....	一
市民社会と共産主義革命(マルクス).....	三
フオイエルバッハについて(マルクス).....	五
フオイエルバッハ『ドイツ・イデオロギー』	
第一部(マルクス).....	二〇
政治的自由主義『ドイツ・イデオロギー』第	
三部(マルクス).....	九七
初期の共産主義的宣傳活動	
ロンドンにおける諸國民の祝祭(エンゲルス).....	一二五
ドイツの状態(エンゲルス).....	一四一
共産主義通信委員會	

マルクスからブルードンへ(一八四六年五月五日).....	一七一
ヘルマン・クリーゲの編集する『フルオクス	
トリブーン』(マルクス・エンゲルス).....	一七三
在ブリュッセル・ドイツ民主的共産主義者か	
らフアーガス・オコンナーへの挨拶(マルク	
ス・エンゲルス).....	二〇〇
ブリュッセルの共産主義通信委員會への通信	
(エンゲルス).....	二〇四
ドイツのスタトウス・クオ(エンゲルス).....	二〇八
プロシヤ憲法(エンゲルス).....	二五四
ブルードン主義との闘争	
マルクスからアネンコフへ(一八四六年十二月	
二十八日).....	二六三
哲学の貧困(マルクス).....	二六八
ドイツ語第一版への序文(エンゲルス).....	四五九

ドイツ語第二版への序文(エンゲルス).....	四八二
付 スペイン語版についてエンゲルスから ホセ・メサへ(一八九一年三月二十四日).....	四八三
解説.....	四八五

第二卷

『在ブリュッセル・ドイツ人新聞』の諸論文	
『ライニッシャー・ベオバハター』紙の共産主義(マルクス).....	一
共産主義者とカール・ハインツ・エン(エンゲルス).....	三
道德的批判と批判的道德(マルクス).....	四八
書評 カール・グ リユール著『人間の立場からみたゲーテにつ いて』(エンゲルス).....	一〇〇
スイスの内乱(エンゲルス).....	一四二
一八四七年の運動(エンゲルス).....	一五五
オーストリアにおける終焉のはじまり(エンゲ ルス).....	一七二
三つのあたらしい憲法(エンゲルス).....	一八三

労賃、賃労働と資本

労 賃(マルクス).....	一九一
賃労働と資本(マルクス).....	二二九
ドイツ版序文(エンゲルス).....	二六七
國際的共産主義文書から	

チャーティストの土地綱領(エンゲルス).....	二七九
フランスの選挙法改正運動(エンゲルス).....	二八四
フランスの選挙法改正運動―ディジョンの宴会 (エンゲルス).....	二九六
フランス(エンゲルス).....	三〇六
チャーティスト運動(エンゲルス).....	三二六
ポーランド問題	
一八四七年十一月二十九日、ロンドンのポーラ ンド革命記念集会における演説(マルクス、エン ゲルス).....	三二二
一八三〇年のポーランド革命記念日(エンゲルス).....	三二六
一八四八年二月二十二日、ブリュッセルのポー ランド革命記念集会における演説(マルクス、エ ンゲルス).....	三三三

自由貿易・保護関税論

保護関税制度か自由貿易制度か(エンゲルス).....	三四三	一八九〇年ドイツ語版への序文(エンゲルス).....	五四五
保護貿易論者(マルクス).....	三四九	一八九二年ポーランド語第二版への序文 (エンゲルス).....	五四二
経済学者大会(エンゲルス).....	三五一	一八九三年イタリア語版への序文(エンゲルス).....	五四四
ブリュッセルの自由貿易会議(エンゲルス).....	三五九	付 一八八八年イギリス語版との主要異文対 照表.....	五五七
保護貿易、自由貿易および労働者階級について の演説(マルクス).....	三七〇	共産主義者同盟規約.....	五六一
保護関税論者、自由貿易論者および労働者階級 (マルクス).....	三七六	解 説.....	五六九
自由貿易問題(マルクス).....	三八〇		
保護関税と自由貿易(エンゲルス).....	四〇三		
共産主義者同盟		第 三 卷	
共産主義者同盟の歴史(エンゲルス).....	四二七		
共産主義の原理(エンゲルス).....	四六二	マルクスと一八四八―四九年の『新ライン新聞』 (エンゲルス).....	一
共産党宣言(マルクス・エンゲルス).....	四八九	フランクフルト議会	
一八七二年ドイツ語版への序文(マルクス・エ ンゲルス).....	五三三	民主党論(エンゲルス).....	一五
一八八二年ロシア語版への序文(マルクス・エ ンゲルス).....	五三五	フランクフルト議会の急進民主党の綱領と左派 の綱領(エンゲルス).....	一九
一八八三年ドイツ語版への序文(エンゲルス).....	五三七	プロシヤ國民議会とブルジョア内閣	
一八八八年イギリス語版への序文(エンゲルス).....	五三八	五月三十日の議会におけるカンプハウゼンの声	

明(マルクス・エンゲルス)……………二九

革命についての協定議会の討論(マルクス)……………三六

六月十五日の協定議会の議事(マルクス)……………四六

カンパ・ハウゼン内閣の没落(マルクス)……………四八

買戻しについてのパトフの覚書(エンゲルス)……………五二

六月二十六日の協定議会の議事(エンゲルス)*……………五六

逮捕(マルクス・エンゲルス)……………六〇

七月四日の協定議会の議事(エンゲルス)……………六三

市民防衛軍法案(マルクス・エンゲルス)……………七九

封建的貢租の廃止についての法案(マルクス・エンゲルス)*……………九〇

ドイツ革命の対外政策

日刊新聞『ラルバ』編集者への手紙(マルクス)……………九九

プラーグの蜂起(エンゲルス)……………一〇二

ドイツ国民議会の最初の業績(エンゲルス)……………一〇七

『ゲルウイヌス新聞』の脅迫(エンゲルス)……………一〇

ドイツの対外政策(エンゲルス)*……………一二四

ドイツの対外政策とプラーグにおける最近の事件(エンゲルス)*……………一二〇

フランクフルトにおけるポーランド問題の討論……………一二〇

(エンゲルス)……………一三

イギリスとフランスの運動

パリからの報道(マルクス)……………二〇五

六月の運動の経過(エンゲルス)……………二一六

『ケルン新聞』イギリスの状態を論ず(マルクス)……………二二九

『パリ・レフォルム』紙フランスの状態を論ず(マルクス)……………二三八

ベルリンとフランクフルトの危機

デンマークとの休戦(エンゲルス)……………二四三

危機と反革命(マルクス)……………二五九

ベルリンにおける討論の自由(マルクス)……………二七二

人民集会和治安委員会(エンゲルス)……………二七六

ウオリンゲンの人民集会(エンゲルス)……………二八二

休戦の批准(エンゲルス)*……………二八五

フランクフルトの蜂起(エンゲルス)……………二九〇

反革命の内閣(マルクス)……………二九四

一八四八年九月二十日のケルン人民大会の宣言(マルクス・エンゲルス)……………二九六

ケルンの革命(マルクス)……………二九八

ウィーンの没落……………二九八

ウィーンの没落

ウイーンの革命(マルクス).....	三〇五	『ケルン新聞』選挙を論ず(マルクス).....	四三一
ドイツ人民にたいする民主党大会の檄(マルクス).....	三〇八	『ケルン新聞』への批判(マルクス).....	四三七
ウイーン敗北の報知(マルクス).....	三二四	ヨーロッパの革命.....	
ウイーンの没落(マルクス).....	三二六	イタリアの革命運動(マルクス).....	四四七
ベルリンの反革命		革命運動(マルクス).....	四四九
ベルリンの危機(マルクス).....	三二三	ハンガリアの革命闘争(エンゲルス).....	四五八
ベルリンの反革命(マルクス).....	三二六	民主的汎斯拉ヴ主義(エンゲルス).....	四七七
民主党ライン州委員会、第一の檄(マルクス).....	三三五	イタリアにおける戦争(エンゲルス).....	五〇五
アイヒマン氏の訓令(マルクス).....	三三七	ハンガリア(エンゲルス).....	五一〇
民主党ライン州委員会、第二の檄(マルクス).....	三四一	赤色共和国のための闘争	
ライン州民主党员への檄(マルクス).....	三四三	ギユルツエニヒの会食(エンゲルス).....	五二五
反革命について(マルクス).....	三四五	民主党ライン州委員会脱退の声明(マルクス)*.....	五二八
反革命のクーデター(マルクス).....	三四六	戒嚴令への熱望(エンゲルス).....	五三〇
ブルジョアジーと反革命(マルクス).....	三四七	エルバーフェルト(エンゲルス).....	五三三
プロシヤの反革命とプロシヤの裁判官身分(マルクス).....	三八三	ケルンの労働者にあたり(マルクス).....	五三八
ブルジョアジーの公文書(マルクス).....	三八五	軍事裁判による『新ライン新聞』の禁止(マルクス).....	五三九
五十六代モンテスキュー(マルクス).....	三九二		
第一次選挙人によびかける『ベルリン國民新聞』(マルクス).....	四一五	解説.....	五四七
		年表.....	五九三

第四卷

ドイツ革命の決算

革命と反革命(エンゲルス)	一
ドイツ國憲法戰役(エンゲルス)	一六九
付 エンゲルスからイエニニ・マルクスへの 手紙(一八四九年七月二十五日)	三〇五

小ブルジョア民主主義との闘争

共産主義者同盟への中央委員会の挨拶 一 (マルクス・エンゲルス)	三〇七
共産主義者同盟への中央委員会の挨拶 二 (マルクス・エンゲルス)	三〇九
萬國革命的共産主義者協會規約(マルクス・エン ゲルス)	三二二
ウイリヒ・シャッパール派について(マルクス)	三二四
『新ライン新聞』の出版法違反訴訟(マルクス)	三三七
公務執行妨害教唆罪による巡回裁判(マルクス)	三七九
ケルン陪審法廷にたつカール・マルクス(エン ゲルス)	三七九

ゲルス)	四二二
------------	-----

ゴットフリート・キンケル(マルクス・エンゲルス)	四二五
--------------------------------	-----

最近のケルンの裁判(エンゲルス)	四三〇
------------------------	-----

ケルン共産党裁判のばくろ(マルクス)	四三九
--------------------------	-----

付 一八七五年ライプツィヒ版からの増補 (マルクス)	五二八
-------------------------------------	-----

一八四八年ドイツ革命にかんする手紙から

一 エンゲルスからマルクスへ (一八五一年二月十三日)	五四九
二 マルクスからエンゲルスへ (一八五一年七月十三日)	五五一
三 エンゲルスからワイデマイヤーへ (一八五三年四月十二日)	五五四
解説	五六一
年表	五七五

第五卷

一八四八―四九年のフランスの運動

フランスにおける階級闘争(マルクス).....	一
ルイ・ナポレオンとフール(マルクス).....	一四九
『フランスにおける階級闘争』序文(エンゲルス).....	一五四
フランスの陰謀家とスパイ(マルクス・エンゲルス).....	一八二

国際評論

国際評論(マルクス・エンゲルス).....	二〇九
-----------------------	-----

反動期とその戦術

ルイ・ボナパルトのブリュメール十八日(マルクス).....	二八一
再版序文(マルクス).....	四二二
第三版序文(エンゲルス).....	四三三
エンゲルスからマルクスへの手紙 (一八五一年十二月三日).....	四三八

昨年十二月にフランスのプロレタリアートが比

較的に受動的だったことの眞因(エンゲルス).....

四三三

一八五二年における神聖同盟の対フランス戦争

の可能と前提(エンゲルス).....

四四七

一八四八年革命の教訓についての手紙から

一 マルクスからワイデマイヤーへ

(一八五二年三月五日).....

四八五

二 エンゲルスからマルクスへ

(一八五一年五月二十三日).....

四九〇

三 エンゲルスからマルクスへ

(一八五一年七月下旬).....

四九三

四 エンゲルスからマルクスへ

(一八五二年九月二十四日).....

四九六

五 マルクスからエンゲルスへ

(一八五六年四月十六日).....

四九七

六 マルクスからエンゲルスへ

(一八五六年十二月二日).....

五〇〇

付 『ビーブルズ・ペイパー』創立記念祝賀式

の演説(マルクス).....

五〇三

解説.....

五〇七

第六卷

初期の財政論文

フォルストマン氏の國家信用論(エンゲルス)*.....

一

コブデンの財政改革(マルクス).....

六

合衆國の予算とキリスト教的ドイツの予算(マル

クス).....二三

書評 エミール・ド・『社会主義と租税』(マルクス).....三〇

ホイッグ内閣—十時間労働日の問題

十時間労働問題(エンゲルス).....三六

イギリスの十時間労働法案(エンゲルス).....四八

イギリス論(エンゲルス).....六二

選挙と諸政党

イギリスの選挙—トリー党とホイッグ党(マルクス).....八一

チャーティスト(マルクス).....九〇

選挙の腐敗(マルクス).....一〇六

選挙の結果(マルクス).....一二五

トリー内閣

貧困と自由貿易—せまりくる商業恐慌(マルクス).....一三三

新反对党創立のくわだて(マルクス).....一三三

議會—十一月二十六日の投票—デイズレイ

の予算案(マルクス).....一三九

アパデューン連立内閣

老いばれ政府—連立内閣の見とおし、その他

(マルクス).....一四九

選挙—うれうべき金融状態—サザランド女公

と奴隸制(マルクス).....一五九

死刑—コブデン氏の小冊子—イングリランド銀行の諸規定(マルクス).....一六七

国防—金融—貴族階級の減少—政治(マルクス).....一七八

議會の討論—社会主義に反対する僧侶—餓死

(マルクス).....一九〇

連立内閣の財政政策

新財政奇術またはグラッドストンとペンス

(マルクス).....一九九

ボンド、シリング、ペンスまたは階級予算、

その利益をうけるものは誰か(マルクス).....二〇七

國民には石鹼を—『タイムズ』紙にはうまい

ものを—連立内閣の予算(マルクス).....二二五

經濟情勢と労働者運動

イギリスの好況—ストライキ—東方問題(マルクス).....二二五

労働者のストライキ—國民憲章(マルクス).....二三四

十時間労働日法案をめぐる闘争(マルクス).....二四四

辻駈者—ストライキとこれにたいする闘争(マ

クス).....二四四

ルクス).....	二五〇	諸政党と諸徒党(マルクス).....	三五八
工業恐慌の兆候(マルクス・エンゲルス)*.....	二五七	バーマストン内閣	
イギリスの人口と商工統計―労働者団体法案―		イギリスの憲法(マルクス).....	三六三
アイルランドにおける地主と小作人(マルクス).....	二六二	反プロシヤのアジテーション―斎戒日(マルクス).....	三七〇
割引歩合の引上げ―不作とその結果―ストライ		ロンドン・タヴァンにおける集会(マルクス).....	三七五
キー反労働者同盟(マルクス).....	二七三	アジテーションの歴史によせて(マルクス).....	三八〇
ストライキーロックアウト(マルクス・エンゲルス)*.....	二八三	『モーニング・ポスト』紙の反プロシヤ論―ホ	
ウィーガンの炭坑夫(マルクス).....	二八六	イッグ党とトリー党の性格(マルクス).....	三八五
産業の災厄(マルクス).....	二九一	金融事情(マルクス).....	三八九
労働議会(マルクス).....	二九五	選挙法改正運動について(マルクス).....	三九三
付 労働議会にあてたマルクスの手紙		行政改革協会―憲章―アーカート(マルクス).....	三九七
(一八五四年三月九日).....	三〇七	反教会運動―ハイドパークにおけるデモンスト	
各國の戦時財政		レーション(マルクス).....	四〇三
戦時財政(マルクス).....	三二一	パーマストン―審査委員会の事業―マンチェス	
オーストリアの破産(マルクス).....	三二七	ター工場の労働保護(マルクス).....	四一七
労働議会―フランスの財政状態―軍事予算		イギリスの軍政について(マルクス).....	四二三
(マルクス).....	三三六	イギリスの軍隊―兵士の懲罰(エンゲルス).....	四三一
アバディーン内閣の瓦解		ラッセル評傳	
商業恐慌(マルクス).....	三三九	ジョン・ラッセル卿(マルクス).....	四三五
瓦解した内閣(マルクス).....	三五二	イギリスの予算	

イギリスの新予算(マルクス).....	四六三
デイズレイリの予算(マルクス).....	四七三
イギリスの予算(マルクス).....	四八〇
議會政治と國家財政問題にかんする手紙から	
一 マルクスからエンゲルスへ.....	四八七
(一八五七年十一月二十四日).....	四八七
二 マルクスからエンゲルスへ.....	四八九
(一八五八年一月十四日).....	四八九
三 エンゲルスからマルクスへ.....	四九〇
(一八五八年十月七日).....	四九〇

解説.....

四九五

第七卷

イタリヤとスイス

マッツイーニとコシュートルイ・ナポレオン	
との同盟―パーマストン(マルクス).....	一
フランツ・ヨーゼフの暗殺未遂―ミラノの暴動―	
イギリスの政策―デイズレイリの演説―ナポ	

レオンの遺言狀(マルクス).....	六
コシュートとマッツイーニ―プロシヤ警察―オ	
ーストリアリブロシヤ通商條約―『タイムズ』	
紙と亡命(マルクス).....	一九
マントイフェルの演説―プロシヤにおける宗教	
運動―マッツイーニの檄文(マルクス).....	二八
スイス共和國の政治情勢(エンゲルス).....	三三

イタリヤ問題にかんする手紙から

一 マルクスからワイデマイヤーへ.....	四四
(一八五一年九月十一日).....	四四
二 マルクスからエンゲルスへ.....	四五
(一八五一年九月十三日).....	四五
三 エンゲルスからマルクスへ.....	四七
(一八五一年九月二十三日).....	四七
四 マルクスからエンゲルスへ.....	四八
(一八五三年二月二十三日).....	四八

東方問題

トルコの諸民族(マルクス・エンゲルス)*.....	五一
トルコにおける眞の係争点(エンゲルス)*.....	六四
トルコ問題(エンゲルス)*.....	七一

ヨーロッパ・トルコはどうなるか(エンゲルス)*	一八〇	たいくつな戦争(マルクス)	二一〇
ロシアと西ヨーロッパ列強(マルクス)	一八八	ワラキアの状態—トルコにおける革命(マルクス)	二一八
ロシアの傳統的政策(マルクス)	一八六	ロシアの軍事力(エンゲルス)	二二一
西ヨーロッパ列強とトルコ(マルクス)	二〇五	戦争の進行(エンゲルス)*	二三八
露土戦争		回顧(マルクス)	二三八
神聖戦争(エンゲルス)*	一一三	フランスの戦争遂行方式の批判(エンゲルス)*	二四三
ロシアの勝利—フランスとイギリスの状態		フランスとイギリスにおける見とおし(エンゲルス)*	二四八
(マルクスIIエンゲルス)	一一〇	ヨーロッパの戦争(エンゲルス)*	二五八
ヨーロッパの戦争(エンゲルス)*	一二九	戦争の決算(マルクス)	二六二
ロシアの外交—モンテネグロ(マルクス)	一二七	ヨーロッパの平和(マルクス)	二六九
コシュートーディズレイリとヒューム—合衆國		ツァーリズムの对外政策	
—フランスとイギリス—ギリシャ(マルクス)	一四七	パーマストン(マルクス)	二七七
フランスとイギリス—ギリシャの反乱—アジ		ドイツと汎スラヴ主義(エンゲルス)	二七六
ア(マルクス)	一六〇	東方問題と汎スラヴ主義にかんする手紙から	
クリミア戦争		一 マルクスからリープクネヒトへ	三八七
宣戦布告—回教徒とキリスト教徒(マルクス)	一七一	(一八七八年二月四、十一日)	
プロシヤの政策(マルクス)	一八三	二 エンゲルスからベルンシュタインへ	四〇一
演説—サン・タルノー(マルクス)	一八九	(一八八二年二月二十二日)	
ロシア、オーストリア、トルコ、ワラキアおよび		スペイン革命	
びレッドクリフ(マルクス)	一九八	マドリードの暴動(マルクス)	四一五

マドリード暴動の詳報(マルクス).....	四二七
ドウルセとオードンネルの宣言文―反徒の成功(マルクス).....	四二四
スペイン革命―諸党派の闘争―サンロセパス チャン、バルセロナ、サラゴッサおよびマ ドリードの兵変(マルクス).....	四二七
エスパルテロ(マルクス).....	四三五
仕事についた反革命(マルクス).....	四四六
スペイン人民の要求(マルクス).....	四四八
スペイン革命とロシア―植民地問題―社会活動 家の腐敗―地方州の無政府状態―マドリード の新聞(マルクス).....	四五〇
憲法議會の召集―選挙法―トルト―サの無政府 状態―秘密結社―政府による武器の買取り― スペインの財政(マルクス).....	四五七
スペインにおける反動―財政状態―イベリア連 邦共和国の憲法(マルクス).....	四六四
政府の最近の措置―スペインの情勢についての 反動新聞の論調―將軍の過剰(マルクス).....	四七三
革命のスペイン(マルクス).....	四七八

スペインの革命(マルクス).....	五四八
--------------------	-----

解説.....	五六五
---------	-----

第八卷

中國問題

中國とヨーロッパにおける革命(マルクス).....	一
中國における軍事行動にかんする議會討論(マル クス).....	一四
英華紛争(マルクス).....	二四
バーマストン内閣の敗北(マルクス).....	二九
中國におけるイギリスの行爲(マルクス).....	四一
中國におけるイギリスのあらたな出兵(エンゲルス).....	四七
ベルシヤと中國(エンゲルス).....	五二
來るべきイギリスの選挙(マルクス).....	六一
阿片貿易(マルクス).....	六八
極東におけるロシアの成功(エンゲルス).....	七八
英華條約(マルクス).....	八五
あらたな中國戦争(マルクス).....	一〇一